

# 利尻島におけるミヤマガラス *Corvus frugilegus* の記録

小杉和樹

〒097-04 利尻郡利尻町杓形字富士見町

## Records of Rooks from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuki KOSUGI

Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri, Hokkaido, 097-04 Japan

これまで利尻島において記録されたカラス類は、コクマルガラス *Corvus monedula*、ハシボソガラス *Corvus corone*、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*、ワタリガラス *Corvus corax* の4種である。北海道本土における記録も本島と同様であり、これら以外の種が本島で記録される可能性は少ないと推測していた。しかし、1994年4月18日から5月3日まで、断続的に最大で16羽のミヤマガラスを利尻島で観察したので報告する。

ミヤマガラスは利尻町杓形字新湊の漁港内の海草干場で最初の1羽が観察され、その後利尻島南部の仙法志と鬼脇で観察された (Table 1)。最初に観察された個体と仙法志で観察された6羽のうちの1羽の嘴基部が白く見えることから (Fig 1)、ハシボソガラスとよく似ているものの、明らかにミヤマガラスであることが識別できた。

また、ハシブトガラス、ハシボソガラスと混群を形成することはなく、人間の排出するゴミ等は採食せず、畑地で昆虫を採食しているなど、行動はハシボソガラスと異なっていた。さらに、非常に警戒心が強く、道路脇に車を止めるだけで採食を中断し、飛び立って電線などに移動していた。

ミヤマガラスはロシア極東沿海地方南部にかけて繁殖し、冬期には朝鮮半島や日本の九州地方に渡来するが、東北以北では稀であり北海道では記録のない種である (日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991)。しかし、未繁殖の若鳥では5月にも越冬地に残ることがあり (高野 1982)、今回利尻島で観察された個体群は、成鳥とした個体でも嘴の基部の露出が完全でないようであり、前述のような個体の漂行例ではないだろうか。ただし、利尻島で本種

表1. 利尻島におけるミヤマガラスの記録  
Table 1. Records of rooks from Rishiri Island.

月	日Date	場所Locality	個体数No. of birds
18	Apr. 1994	Shinminato, Kutsugata (45° 12' N, 141° 8' 30" E)	Ad 1
22-25	Apr. 1994	Masadomari, Senhoushi (45° 6' 45" N, 141° 12' 30" E)	Ad 1, Juv 4
24	Apr. 1994	Kanazaki, Oniwaki (45° 7' 30" N, 141° 18' E)	Juv 6
24	Apr. 1994	Numaura, Oniwaki (45° 7' N, 141° 17' 30" E)	Ad 2, Juv 10
29	Apr. 1994	Numaura, Oniwaki (45° 7' N, 141° 17' 30" E)	Ad 2, Juv 14
3	May 1994	Numaura, Oniwaki (45° 7' N, 141° 17' 30" E)	Juv 1

が観察された同時期の4月30日に礼文島でも8羽が観察されており(富川、小畑、福岡 1994)、ハシボソガラスと似ていることからこれまで記録されにくかっただけで、春の渡り期には日本列島の日本海側を北上してロシア沿海地方に定期的に渡るとも考えられる。

カラス類は身近に観察できる鳥類であり、今後多くの方の観察とその情報の提供をお願いしたい。

#### 引用文献

- 日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会、1991. 北海道地域別鳥類リスト。  
高野伸二、1982. フィールドガイド日本の野鳥  
富川徹・小畑淳毅・福岡将之、1995. 礼文島における春季(1994)の鳥類相。利尻研究14号(印刷中)。



図1. ミヤマガラス  
利尻町仙法志字政泊で観察された5羽のうちの2羽、左の個体の嘴基部が白い。  
Fig. 1. *Corvus frugilegus*